

## 「クジラと鯨の溝をめぐって」

倉澤七生（イルカ&クジラ・アクション・ネットワーク）

これまで日本は「クジラは水産資源」という見方を唯一のものとして世界に発信してきた。周囲を海で囲われ、そこで取れるものを食料として利用してきたものとしてはごく自然な成り行きかもしれない。一方で、1992年の国連環境と開発に関する会議（リオサミット）において、人間もまた、自然環境に組み込まれた存在であり容量を超えた自然からの収奪は、人間の存在をも危うくすることの理解も共有された。国際的にはクジラもまた海洋の自然生態系の要となる種であることが認識される中、その生態の理解や海洋生態系における役割も次々に明らかになっている。

日本は、リオ以降「持続的な開発」という文言を積極的にとりいれてきたが、一方で文言が、産業を持続させる方向では使われてきたものの、保全という観点では問題があるのではないかと NGO として感じている。クジラを含めた海洋環境保全と日本のあり方について、国内外の情報や関連する法律などから検証してみたい。